

教授に就任して

教授就任のご挨拶

新潟大学大学院医歯学総合研究科
歯科矯正学分野 丹 原 惇

歯学部ニュースをご覧の皆様、こんにちは。去る2024年11月1日より歯科矯正学分野の教授を拝命いたしました丹原 惇と申します。当分野は、1968年4月に新潟大学歯学部歯科矯正学講座として創設され、初代 福原達郎 教授（1968年～1977年）、二代目 花田晃治 教授（1977年～2004年）、三代目 齋藤 功 教授（2004年～2024年）の3名の先生が主宰されてこられました。50年以上の歴史を有する教室であり、同門会員の先生も200名を超えております。この伝統ある歯科矯正学分野の歴史を紡いでいく重責を担うこととなり、改めて身が引き締まる思いです。

2001年に入学してから、学部学生、研修医、大学院生、教員と留学期間を除けば本学歯学部一筋でキャリアを積みさせていただき早24年が経ちました。実は2001年の歯学部ニュースには私が入学した当時の「入学者のことば」が掲載（<https://www.dent.niigata-u.ac.jp/ShigakubuNews/95/10-13.pdf>）されており、初心にかえる意味も込めて改めて読んでみました。そこには、「なぜか、私の周りがすべて新潟大学へ進学させるようにはたらかしました。」と書かれておりました。まさかその時の私は25年後にこのような未来が待っているとは微塵も想像できていませんでしたが、今思い返して考えてみると、やはり何か強い縁というものを感じていたのだと思います。私自身、キャリアを積んでいる中で、「新潟大学の歯学部の一員として」という意識はずっとありましたので、それも今の私に続いている大切な要素のひとつです。

これまでのキャリアを踏まえて、今後は分野の

長として、また歯学部舵取りをする一員としての仕事が始まることとなりますが、歯学部を取り巻く環境は厳しさを増す一方です。特に、大学院進学者の減少は歯学部の将来を考えると憂慮すべき事態だと思います。こういった状況の中での分野の運営にあたっては、教育面では学部学生に対して、歯科矯正学の面白さ、奥深さに触れることができるような講義実習を設計しながら、歯科医師となった後もさらに専門的なスキルとしての矯正歯科臨床を習得できる体制の充実化を図って参りたいと思います。魅力ある研究も人財の確保には重要ですので、臨床系分野として診療に直結する臨床研究の他、基礎系分野と連携した共同研究により新たな知の創出を通して社会貢献に繋がたいと考えております。

私の着任により、2025年現在、日本で最も若い歯科矯正学の医局となりました。医局員も皆、新しい船出と共に各自の役割を認識してくれて、一致団結して日々の業務にあたっております。この若さは時には経験不足にも捉えられることもあるかもしれませんが、我々は与えられた時間の長さをチャンスと捉えて、長期的な視点をもって種々の問題に挑戦していこうと考えております。最後になりましたが、今後も変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



就任祝賀会にて医局員と共に
（前列左から3番目が筆者）